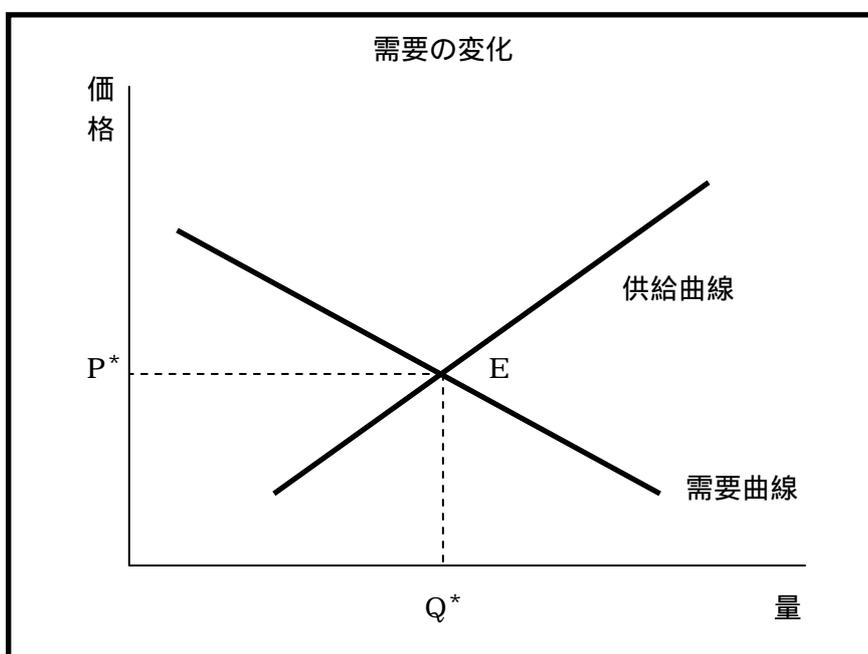


第7回 需要・供給分析の応用（市場への介入はどのような影響をもつか）

本講義目的

- 弾力性とはどのような概念だろう。
- 上限価格や最低価格の設定はどのような結果を導くか。

1. 市場均衡（前回の復習）



需要と供給の均衡

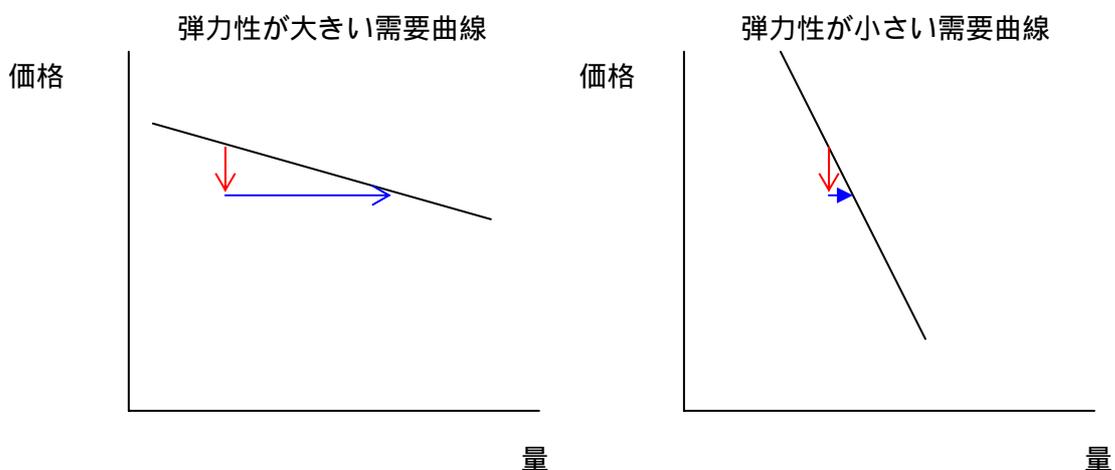
競争的市場では、価格が財の希少性を示すシグナルの役割を果たし、取引を通じて需要と供給が一致し、均衡が達成されることとなる。図では、均衡は E 点で実現し、その時の均衡価格は P^* で均衡量が Q^* となる。

2. 弾力性

(1) 需要の価格弾力性

需要の価格弾力性 = - (需要量の百分比変化率 / 価格の百分比変化率)
価格が 1% 変化した時に需要が何% 変化するかを示したもの。

例： 2%の価格低下に対して、需要量が8%増加すれば、需要の価格弾力性は4になる。



需要の弾力性の決定要因

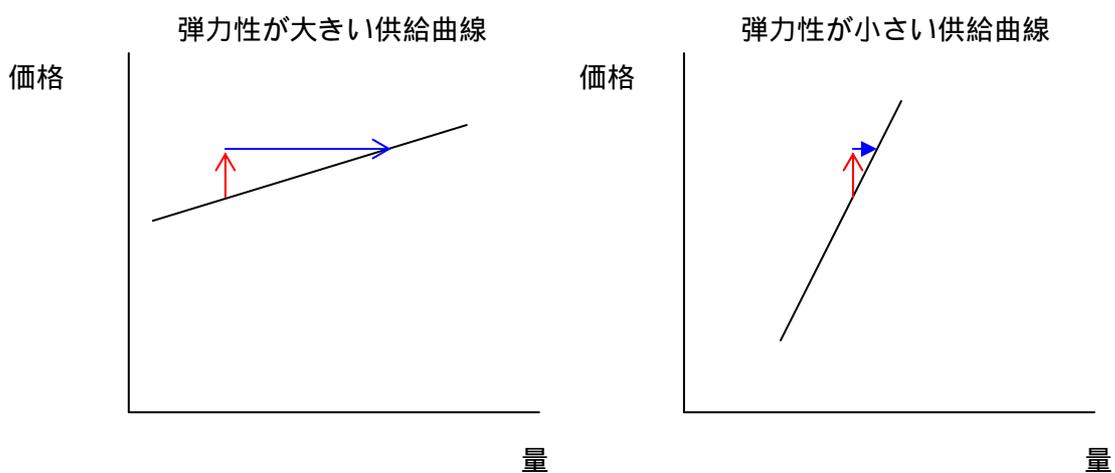
代替財がどれ位あるか。(例： アルミニウムとスズ)

どれ位の期間で弾力性を評価するか。(例： ガソリン)

(2) 供給の価格弾力性

供給の価格弾力性 = 供給量の百分比変化率 / 価格の百分比変化率
価格が1%変化した時に供給が何%変化するかを示したもの。

例： 3%の価格上昇に対して、供給量が9%増加すれば、需要の価格弾力性は3になる。



供給の弾力性の決定要因

どれ位の期間で弾力性を評価するか。(例： 石油)

短期と長期とは

短期： 現在利用している機械や建物などの生産設備をそのまま利用する期間

長期： 機械や建物などの生産設備を変更することができる期間

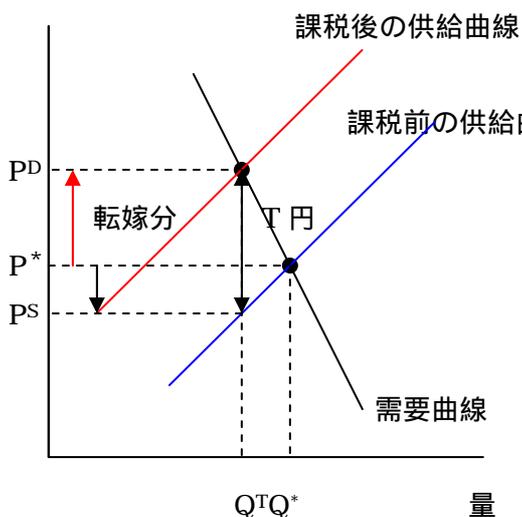
(3) 弾力性

需要曲線のシフトや供給曲線のシフトによって、均衡価格や均衡量がどれ位変化するかを、需要の弾力性や供給の弾力性の概念を用いて考えることができる。

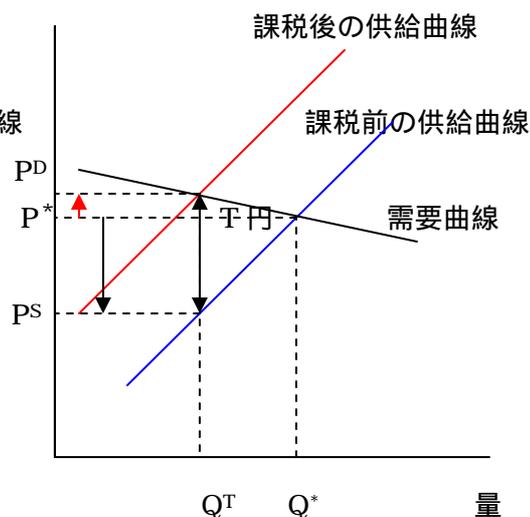
弾力性が大きい場合は価格に対する影響よりも量に対する影響が大きい、一方、弾力性が小さい場合には量に対する影響よりも価格に対する影響が大きい。

(4) 課税政策と需要・供給の法則

需要の価格弾力性が小さい場合



需要の価格弾力性が大きい場合



1 単位当たり税金が T 円引き上げられ、その税金が企業に課される状況を考えてみよう。この課税による費用負担分を消費者に負担させるため、企業は製品価格を 1 単位につき T 円増加させる。製品価格が上昇すると、需要は減少するが、どれだけ需要が減少するかは需要の価格弾力性に依存する。需要の減少により企業は製品価格を引き下げるが、そのときの価格引下げ幅は供給の価格弾力性による。

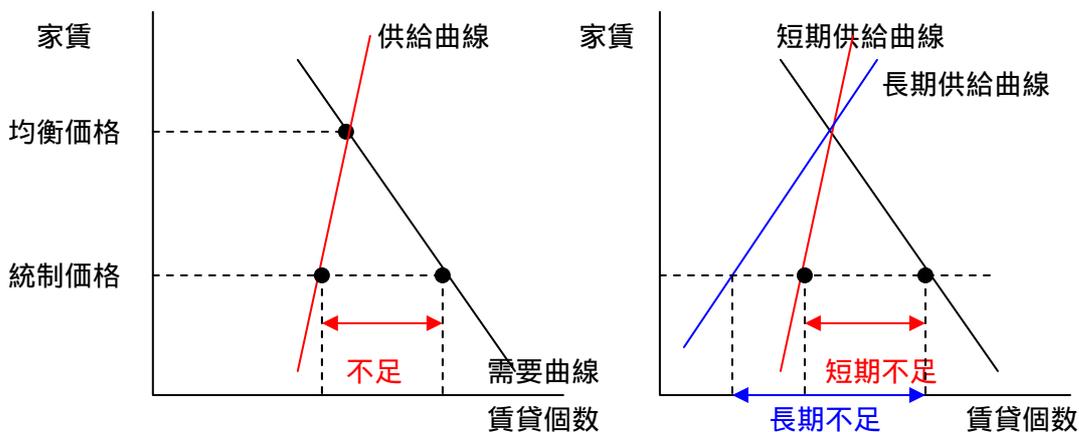
需要の価格弾力性と税収の規模

3. 市場への介入

代表的な市場介入方法は取引価格に制限を設けることである。政府は取引できる価格に上限を設けたり、逆に下限を設けたりする。以下でこうした取引価格に制限をもうけることがどのような結果を導くかを調べてみる。

(1) 上限価格の設定(例: 家賃統制)

例えば、「所得が低い人でも住宅が借りられるようにする」といった目的で政府は家賃統制を導入する。こうした家賃統制はどのような結果をもたらすだろうか。

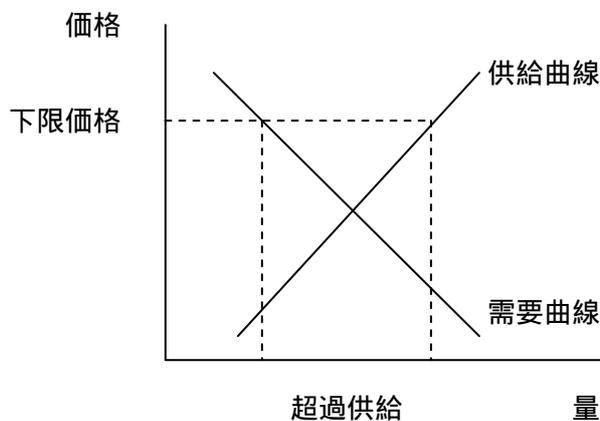


家賃統制がもたらす結果

- 一部の運の良い人が低価格で家を借り、残りの人は家にあぶれる。
- 新しい住宅が提供されず、ぼろぼろの住宅が貸し続けられる。
- 裏取引で家が賃貸されるようになる。

(2) 下限価格の設定(例: 農産物価格支持)

例えば、農家の政治的な圧力を受け、政府が農産物について最低価格を設けたとしよう。こうした農産物の価格補償支持はどのような結果をもたらすだろうか。



農産物価格支持がもたらす結果

農産物の超過供給と在庫の増加

莫大な政府支出

消費者から生産者への所得分配